



銭湯「若の湯」経営者

若井 康江 さん

まいづる元気人 Vol.78

銭湯文化でまちを元気に

半年に及ぶボイラーや設備の改修工事を終え、今年7月10日に再開した西舞鶴本町にある銭湯「若の湯」。昭和40年には、市内に21軒もの銭湯があったが、今では2軒。お風呂は各家庭にあるのが当たり前になった今、銭湯を続ける意味や熱い思いについて、笑顔が素敵な若井さんに話を伺いました。

「若の湯」のれんを引き継いで

若井さんの出身は広島県。神戸の大学で英語を学んでいた頃に出会ったのが、舞鶴出身の大学生。後に結婚することになる。若の湯の跡取りだった。子どもが生まれるまでは出版社に勤め、中小企業の社長や個人店主を取材し、記事にしていた。忙しいと追い返されたりするところもあったが、社長などやりがいがあった。中でも印象に残っているのが、本を納めに行くこと出版を楽しみにしていた社長の奥様が亡くなっていて、記事を読んだ社長に泣きながら感謝されたことだ。

2人の子どもにも恵まれ、大阪での生活が続くものと思っていた。しかし、今でいう一企業でばかり働いていた夫が29歳という若さで病に倒れ、生活が一変。「義母が銭湯をリタイアしたら大阪に引き取ろうと話をしていたら、私たちが引き取ってもうらうらうになりました」と当時を振り返り明るく話す。しかし1歳と3歳

の子育てと夫の介護で舞鶴に戻った頃は、並大抵の苦労ではなかったはずだ。銭湯を切り盛りしていた義母が10年ほど前に脳梗塞で倒れてからは、若井さんが4代目として「若の湯」を支えるようになった。

国の登録有形文化財に

創業は明治36(1903)年。初代が桶屋で木くずを利用して銭湯を始めた。現在の建物は、大正12(1923)年に建てられ、創作的な洋風デザインを取り入れた建物が評価され、平成30(2018)年に国の登録有形文化財に登録された。「私にしたら、見慣れた建物で維持していくことの大変さばかりに目がいていました。登録は大涌工務店の大涌さんが中心になり進めていただき、周囲から教えられる形で、歴史を伝える大切なものを預かっていただくと実感しました」と話す。

銭湯が担う役割

借地返還に伴うボイラー交換や設備の新設を考えた時、廃業も頭をよぎったが「ここで諦

めたくない」という思いで改修に踏み切った。

「お風呂は汗を流して1日の疲れを取り、また明日がんばろう」という気持ちにしてくれます。また、銭湯はコミュニティの場でもあるんです。今の時代は個人で完結できることが多いですが、それが幸せだとは思いません」と語る。初めて訪れる人に常連さんが声をかけて、話が盛り上がるのを見ると、私自身も幸せな気分になります。知らない場所でも声をかけられると、その人にとってそのまちは「温かいまち」として記憶に残ると思うんです。銭湯を知らない若い子がうちにきて「懐かしい」と言っている。銭湯の持つ雰囲気は日本人のDNAに刻まれているからかも」と笑う。

市内に残る2つの銭湯はどちらも文化財。独自の魅力として、まちの活性化に役立たいと、話してくれた。100年以上の歴史を持つ「若の湯」は、コロナ禍も乗り越え、これからは私たちの体と心を癒してくれるだろう。



各地の日当たりのよい山野に生える多年草。茎は直立し、高さは1mほど、全体に毛が多い。根元から走行枝を伸ばし新しい株ができる。葉は対生で羽状に分かれ、裂片は長楕円形で頂片が最も大きい。花は、晩夏から秋にかけて、茎の先が枝分かれし、それぞれに白色の小さな花をたくさん咲かせる。名前の由来は、オミナエシ(女郎花)に対し、全体が丈夫なことからオトコエシ(男郎花)という。昔、葉は食用とされ、飢餓のとき救荒食物とされた。

【協力】瓜生勝朗/文化財保護審議会委員(植物分野)

オトコエシ(オミナエシ科)

まいづる 花図鑑

vol.165



糸井文庫

「海辺の京都浮世絵コレクション」 第29回

豊年の狂画 (ほうねんのきょうが)

【縮小不明(至代)不明(大)35・4号×24号 ※実物は9月30日まで展示と発見館郷土資料館で展示中。今月は動物のいる絵がテーマ。

今月は少し変わった作品を紹介しましょう。タイトルの「狂画」は「面白おかしく戯れに描いた浮世絵の一種。この作品を絵に隠れた謎解きを楽しむ「判じ絵」とみる説もありですが、内容はよく分かっています。せん。左上段に軍服姿の西洋人が描かれることから、幕末の社会情勢を風刺したものと思われる。

左中段、二人の男の酒宴に顔(鼻)を出す象の姿が目を引きまします。江戸時代の象



といえ、享保14(1729)年、8代將軍吉宗に献上するため、長崎から江戸に運ばれた象が有名です。仏教の影響で象という動物の認識はあっても、一般の日本人が実物を見るのは幕末の開港以降。文久3(1863)年、江戸西国で象の見世物興行が行われ、江戸中の評判となり、多くの浮世絵が描かれました。珍しい異国の動物を見ることは、疫病をばらひ、福を招くなどの御利益があるとして人気を博しました。



Our community

夢中になる時間

サロン矢之助

サロン矢之助は、矢之助東町内会の会員であれば、誰でも参加できる団体です。年齢制限はなく、地域の皆さんが寄り添える場として立ち上げました。

サロンを開始し、7年程度になりましたが、初めは皆が集まるにはどうしたらいいかと考え、バーベキューや新年会などを開催しました。その後「サロンdeす」という名前で行うようになり、体力の低下予防、ストレス解消、おしゃべりを楽しみに毎週木曜日に集会所で体操



を実施しています。また、体操以外にも折り紙、写経、麻雀など楽しく活動しています。サロンを始めた頃から参加者は変わってきましたが、これからも工夫しながら活動を続けていきたいと思っています。▼詳しくは、サロン矢之助の垣田さん(☎63・0099)へ。

掲載団体を随時募集中 (☎広報広聴課 ☎66・1041) 自治会・ボランティア団体・学校・サークル団体などの活動を紹介(応募多数の場合優先)。下記からアクセス可。

